

---

# リハビリテーション天草病院だより

---

2023年 7月

No.107



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

---

## 当院運営基本理念等の再確認

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

当院は1976年4月1日に開設しました。丁度47年と4か月目に入ったところです。この間に病院以外に老人保健施設、訪問看護ステーション、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所などの施設を増設して参りました。いつも職員には、社会人としての基本は「挨拶の励行」と「時間の厳守」であることを執拗に指導しました。そして病院人としては次のような心構えで執務するよう命じました。以下に当院の基本理念等を示します。

### 《当院設置目的》

良質で効率的な回復期リハビリテーション医療を提供

☆上記医療を担う病院として、重要課題は、脳卒中等の発症直後に入院する急性期病院（紹介元病院）及び当院退院後に生活期リハビリを担う通所リハビリや訪問リハビリ実施機関（当法人内施設でも鋭意実施中）との連携である。この連携なくしては当院の存在価値はなくなる。「良質で効率的」とは、高級大型車は乗り心地は良いが燃費が高くつき路地などでは小回りが効かず効率性で劣る。当院では高級小型車をイメージしている。

### 《当院運営基本理念》

患者さんに、安心・安全・満足を提供し、誰からも敬愛される病院を創造

☆当法人の名称「敬愛会」は基本理念を一言で表現したものである。

### 《当院運営基本方針》

◎患者さんに対して

①明るい快適で安全な療養環境の提供

②学問的根拠に基づいたリハビリテーション医療の提供

③あらゆる分野においての情報提供

◎職員に対して

①明るい快適で安全な職場環境の提供

②やり甲斐、生き甲斐を持って仕事や研究ができる環境の提供

③仕事や研究等に見合った公平な処遇

今後、当院は患者さんから選ばれるような治療成績などの向上に間断なく取り組み、リハビリなら天草病院と言われるように「ブランド特化」を図っていくことが必要になります。「ブランド特化」のためには、他のリハビリ病院との差別化、言い換えれば、患者さんから全幅の信頼を得られる最も秀でた病院にしなくてはなりません。そのためは、常に自院の役割を明確にし、その役割を遂行していくための「基本理念」等を毎日の仕事の中で実行していかななくてはなりません。理念等に基づいて実行されているかどうか、その実行内容が正しいかどうかを検証するには自己評価だけでは独りよがりになってしまう可能性があります。そこで、最低限、第三者による評価が重要になって参ります。当院は、何年も前から、病院機能評価機構やISOの認証を受けております。リハビリ病院は、診療報酬上5つのランクに分かれていますが、勿論、当院は最上位に位置し、かつ、気鋭の常勤3名のリハビリ専門医、他の医師は脳神経内科専門医等取得者で日々頑張っております。

## 数字で見る当院の治療実績

退院年度		2020年度		2021年度		2022年度		単位
退院した患者		743		737		704		人
性別	男性	404	54.4%	433	58.8%	385	54.7%	人
	女性	339	45.6%	304	41.2%	319	45.3%	人
入院時年齢	91歳以上	22	3.0%	10	1.4%	9	1.3%	人
	81～90歳	190	25.6%	198	26.9%	196	27.8%	人
	71～80歳	261	35.1%	250	33.9%	225	32.0%	人
	61～70歳	124	16.7%	111	15.1%	105	14.9%	人
	51～60歳	73	9.8%	95	12.9%	92	13.1%	人
	41～50歳	49	6.6%	51	6.9%	50	7.1%	人
	31～40歳	16	2.2%	7	0.9%	14	2.0%	人
	30歳以下	8	1.1%	15	2.0%	13	1.8%	人
平均	71.5		70.9		70.6		歳	
入院期間	181日以上	1	0.1%	4	0.5%	3	0.4%	人
	151～180日	75	10.1%	75	10.2%	98	13.9%	人
	121～150日	111	14.9%	96	13.0%	117	16.6%	人
	91～120日	133	17.9%	116	15.7%	113	16.1%	人
	61～90日	191	25.7%	215	29.2%	170	24.1%	人
	31～60日	156	21.0%	156	21.2%	136	19.3%	人
	30日以下	76	10.2%	75	10.2%	67	9.5%	人
平均	87.0		86.2		92.5		日	
疾患別リハ料	脳血管リハ	584	78.6%	566	76.8%	584	83.0%	人
	運動器リハ	148	19.9%	167	22.7%	112	15.9%	人
	廃用症候群	7	0.9%	3	0.4%	8	1.1%	人
	リハ対象外	4	0.5%	1	0.1%	0	0.0%	人
疾患内訳	脳梗塞	292	39.3%	289	39.2%	315	44.7%	人
	脳出血	151	20.3%	144	19.5%	137	19.5%	人
	クモ膜下出血	49	6.6%	50	6.8%	43	6.1%	人
	他の神経疾患	61	8.2%	82	11.1%	92	13.1%	人
	廃用症候群	7	0.9%	3	0.4%	7	1.0%	人
	急性増悪	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	人
	骨折	124	16.7%	125	17.0%	80	11.4%	人
	骨折以外の運動器疾患	55	7.4%	43	5.8%	29	4.1%	人
リハ対象外の疾患	4	0.5%	1	0.1%	0	0.0%	人	
診療実績	重症患者率	44.9		46.2		47.6		%
	重症患者改善率	71.5		76.2		75.1		%
	在宅復帰率	82.8		82.9		82.2		%
	経口摂取回復率	54.6		50.5		55.1		%
	FIM利得	29.7		30.4		30.6		点
リハビリ実績指数	53.8		57.2		53.8		点	

回復期リハビリテーション病棟入院料1 施設基準

- ・重症患者率：40%以上
- ・重症患者改善率：30%以上
- ・在宅復帰率：30%以上
- ・リハビリ実績指数：40以上

## 「病床徒然」

越谷市 宮本 詢子

令和4年10月26日の早朝、脳梗塞を発症し、救急病院に搬送されそこでの治療後、11月15日にリハビリテーション天草病院に転院してきました。今、3ヶ月が過ぎようとしています。

入院歴のない私にとって、ここでの生活は想像さえしなかった異次元の空間でした。転院当初、左半身麻痺の後遺症があり、左手はかなり回復しているものの左足は重く鉛のようでした。私の場合「歩く」ことに特化したプランで治療が進められました。1日3時間のリハビリは今まで運動らしい運動をしてこなかった私にとって過酷で「鬼の特訓」でもありました。身体のあちこちが軋み、骨がポキポキ悲鳴をあげました。夜は床に入るとすぐ8時間近く爆睡、翌朝の目覚めは爽快でした。その過酷さにも病院の日常にも次第に慣れ、いつしか治療中にセラピストの方々と「おしゃべり」を楽しむようになっていました。リハビリとリハビリとの間の時間は、最近とみに遠ざかっていた読書に充てました。幼かった頃、若かった頃の愛読書で背表紙が破れ黄色くなった本を再び手に取りました。それらは懐かしく新鮮でもありました。また、お気に入りの作家の最新作も数冊読んでみました。さらに脳トレを兼ねて、リアル脱出ゲームの「イラスト謎解きパズル」にチャレンジ、これは難しすぎてギブアップ気味です。

歩行訓練は思うようにはならず一進一退を繰り返しています。しかし、確実に前に向かっていくのを感じております。日常生活に戻る

のは、まだまだ大変そうです。これから「在宅リハビリ」が始まります。見守ってくれる人がいない中で、自分で考え、工夫しなければなりません。焦らず、少しずつ日常を取り戻していきます。一步一步左右の足に重心を移動させながら足裏に大地を捉え、前に向かって歩いていく「私」をイメージしながらリハビリに励みます。

ここまで導いてくださった天草病院のスタッフの皆様にご心から感謝します。私同様、不安を抱え苦しんでいる患者さんに寄り添い、心の痛みを共に感じながら社会復帰への勇気と再生への希望を高い技術と共に与えてくださることを願っております。

※患者様は歩行可能な状態に回復し、令和5年2月14日、ご自宅に退院されています。退院後は、敬愛会の訪問リハビリサービスを利用し、リハビリを継続しています。

(投稿日 令和5年2月13日)

## 「口から食べる事の大変さ」

松伏町 牧野 恵美

私が天草病院に転院して来た時、鼻からのチューブを入れて栄養を摂っていて、唾液すら飲み込めない状態でした。前の病院では、トイレに行くのも看護師さんと呼んで車椅子で連れて行ってもらいリハビリも30分位で、一日のほとんどをベッドの上で過ごしていました。天草病院に転院してからは車椅子で動けるのが嬉しくて、色々と動きすぎて吐いてしまうこともありました。一度、咳き込みだすと止まらなくなって吐いてしまい、声が擦れてなかなか戻らないことやテープでかぶれてしまい顔を半分しか洗えない等もありましたが、一番辛かったのは口で物を食べたり飲んだりできないことでした。チューブからの

栄養は直ぐにお腹が空くし、水分を摂りたくても飲み込めないのでチューブから摂るしか出来ませんでした。リハビリに行く時も必ず「箱ティッシュとビニール袋」を持って行き飲み込めない唾や痰を出していました。横になる時も仰向けになると、むせてしまうので「横向き」か「傾斜台」を使わなければならず、眠る時も無意識で仰向けになってしまうと、むせて起きるを繰り返していました。

鼻のチューブの交換はとて大変で、チューブを飲み込まなければならず上手く入らずに何度も吐きそうになりながら、やっとの思いで入れてちゃんと入っているかをレントゲンで確認しなければならなかったのもとても大変でした。嚥下のリハビリで少しずつ飲み込めるようになり、ミキサー食を初めて食べた時「とっても美味しい」と感動しました。嚥下のリハビリで食べられるミキサー食がとても楽しみで、他のリハビリで体力作りをして早く鼻のチューブを抜くために頑張りました。幸いなことに私は誤嚥しそうになると咳き込んで無意識にブロックしていた様で、肺炎等にならずにすみました。何度か飲み込みの検査をして鼻のチューブを抜いても良いと言われた時は「これから口で物を食べられる」ととても嬉しかったです。チューブが抜けて、口から薬や食事をするようになって先ず薬の錠剤が飲み込めないで細かく砕いてもらい、粉薬と混ぜてトロミ水で溶かして飲まなければならず味が「苦い・酸っぱい・甘い」で飲むことが大変でした。錠剤は砕くとこんな味になるのかと改めて思いました。チューブが抜けてからは、口から食事するだけでこんなに腹持ちが良いのかと実感しました。食べ物もミキサー食のお粥は喉にへばりついてなかなか飲み込めず、大変で水分もトロミを付けると飲めませんでした。少しずつ食事の量を増やし、食事形態を上げていき今では「普

通の食事」を食べられるようになり、錠剤もそのまま飲み込める状態まで回復しました。飲み込むためにこんな筋肉を使うのかと感心しつつ、リハビリを頑張って自転車に乗ることや歩くこと階段や字を書く等も出来るようになりました。まだ、全ての食材を食べられるわけではないので体力をつけつつ、嚥下を頑張って少しでも多くの食べ物を普通に食べられるようになりたいと思っています。チューブを入れた状態でもリハビリを諦めずに頑張っていれば少しずつでも回復してくるのでこれからも頑張っていこうと思っています。

※患者様は食事が食べられるようになり、歩行可能な状態に回復し、ご自宅に退院されています。定期的に当院、嚥下外来を受診する予定となっています。

(投稿日 令和5年5月25日)

## 感謝の声（投書箱より）

入院中は大変お世話になりました。体調は全快とは、まいりませんが良好だと思っています。リハビリをかねた仕事を始めました。結構動きにきつい所もまだ多々ありますが、日一日と元に戻りつつあることも実感しております。昨日よりも今日の連続です。ここまで身体を元に近い方向にもって来て頂いたこと、本当に感謝しております。まだ、左手と腕に力が入りにくいことありますが体力と筋力をつけることで解消すると思っています。毎日、力を入れてリハビリをしてきている先生方も大変だとは思いますが、元気にそして明るくやって頂くことで患者にはプラスになると思います。看護師の方々におかれましては時に厳しくでもフレンドリーな接し方には嬉しく思いました。励みにもなりました。本当に感謝しかありません。

(A病棟 入院患者様より)

## 身体抑制解除のための多職種連携

看護師 村木 恵子（前病院看護師長、現老健入所部長）

A病棟では、リハビリ部と看護部のスタッフがチームを組み、チームアプローチの活動をしています。

「摂食機能療法の充実」「医療安全対策の充実」「ADL向上と自宅復帰支援の充実」「医療コミュニケーションの充実」の4項目について、チームとして目標を立てて、1年間活動をしています。

今回は、その中で「医療安全対策の充実」チームの活動をご紹介します。

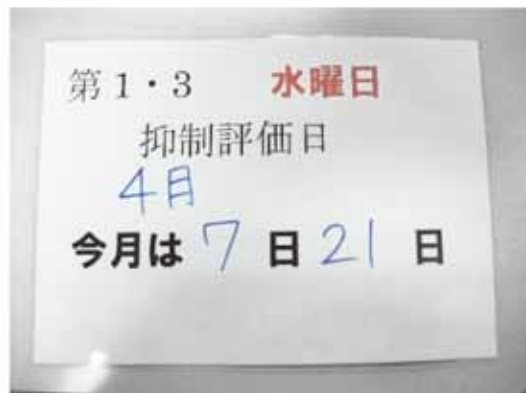
高次脳機能障害や認知力の低下などで危険予測や対処ができない患者さんに対して、安全な入院生活を送っていただくために、やむを得ず身体抑制を実施する場合があります。しかし皆さんもお分りの通り、身体抑制は身体活動や精神活動の低下を招きます。そこで「医療安全対策の充実」チームが中心となり、定期的な評価や早期の身体抑制解除を目指す目的でこの活動を始めました。

実際の評価は、リハビリ担当者とプライマリー看護師が中心となり、身体抑制を解除できるか解除するためにはどのような取り組み

やケアが必要かを話し合っています。そして、カンファレンス時に医師や医療相談員などに提案して意見をいただき、リハビリ計画や看護計画に反映させています。

まだリハビリスタッフや看護師への浸透は難しく試行錯誤しながら実施していますが、「短時間でも抑制をはずす」「日中は目の届く場所にいていただく」など様々な試みにつながっています。

今後もこの活動を継続し、身体抑制を使用しない病棟を目指していきたいと思っています。



抑制評価日の掲示

### 《用語の説明》

- ・**身体抑制**：ご自身の状況が認識できずに動いて転倒して怪我をしたり、点滴の管を抜いてしまう等の不利益を招いてしまう恐れのある方に対して、ベッドや車椅子において、ベルトや手袋を装着させて行動を抑制すること。
- ・**プライマリー看護師**：1人の看護師が1人の患者さんの入院から退院までの生活を一貫して受け持つことである。看護方式の特徴は、看護師の主体性や専門性が発揮できることや、患者さんに合わせた看護を提供しやすいことである。

関連施設だより

## 数字で見る当施設の在宅復帰率等実績

介護老人保健施設シルバーケア敬愛

	項目	2020年度	2021年度	2022年度
介護老人保健施設 (入所部)	入所利用状況（年度平均人数）	99.36人	98.96人	100.50人
	在宅復帰・在宅療養支援等指標	73点	73点	73点
	目標値	70点以上	70点以上	70点以上
	在宅復帰率	61.62%	69.82%	74.44%
	目標値	50%以上	50%以上	50%以上
	ベッド回転率	7.21%	7.53%	8.40%
	目標値	5%以上	5%以上	5%以上
	入所前後訪問指導割合	39.84%	26.80%	35.89%
	目標値	30%以上	30%以上	30%以上
	退所前後訪問指導割合	40.12%	36.73%	45.29%
	目標値	30%以上	30%以上	30%以上
	要介護4・5の割合	57.69%	56.22%	55.41%
	目標値	50%以上	50%以上	50%以上
	喀痰吸引の実施割合	1.87%	2.28%	1.88%
	目標値	5%以上	5%以上	5%以上
	経管栄養の実施割合	7.01%	7.63%	6.34%
	目標値	5%以上	5%以上	5%以上
	居宅サービスの実施数	3	3	3
	目標値	3サービス	3サービス	3サービス
	経口維持加算	190人	207人	312人
経口摂食を維持する体制の整備				
口腔衛生管理加算	250人	247人	366人	
歯科衛生士による口腔ケア				
所定疾患施設療養	22人	8人	19人	
肺炎・尿路感染症等の治療管理				
ターミナル加算	1人	2人	8人	
ターミナルケアを行う体制の整備				
介護老人保健施設 (通所部)	通所利用状況（年度平均人数）	111.54人	103.03人	105.29人
	新規通所利用者数	91人	90人	107人
	要支援・短時間通所リハ利用者数	33人	97人	106人
	中重度者ケア体制加算	38.09%	38.49%	42.78%
	要介護3～5の割合	30%以上	30%以上	30%以上
	口腔機能向上加算	200人	231人	268人
STによる口腔機能向上サービス				

超強化型介護老人保健施設

算定要件

- ・在宅復帰・在宅療養支援等指標70点以上
- ・リハマネジメントの実施、充実したリハ

- ・退所時指導の実施
- ・地域貢献活動の実施

## 編 集 手 帳

✦安倍晋三・元首相がテロリストの凶弾に倒れてから1年が経ちました。戦後の日本史で多大な功績を残した希有の卓越した政治家であった「世界」の安倍氏を尊敬し称賛する人は大勢います。一方、政治家には称賛される人物ほど「敵」も「妬み」も多いと言われています。安倍氏も例外ではありませんでした。このことについては後述します。

✦テロリストが逮捕され、旧統一教会信者の母親が多額の寄付を協会に行い経済的破綻に陥り「安倍氏が協会とつるんでいる」と確信し、それを恨み殺害におよんだと供述していたことが判明すると、それまでテロリストを非難し、安倍氏の幾つかの功績を讃えていたマスメディアは一転、その矛先を旧統一教会と何と凶弾に倒れた安倍氏本人に向けたのです。安倍氏の死で安倍氏批判を封印していた多くのマスメディアが30年振りの協会批判と

共に、安倍氏批判をあたかも自然の流れのごとく臆面もなく再開したのは皆様ご承知のとおりです。

✦批判の再開で先頭に立ち大活躍したのが、自称「進歩的文化人」と言う「まやかし者」といつでも何でも反対の「無責任・無定見野党」です。進歩的文化人の中には（某大学の某教授）「安倍が殺されたのは必然で国家のためになった」と暴言をはく輩も出てきました。「暴力は許せない」と言いながら平気でテロリストを擁護し、ここぞとばかり安倍氏批判を繰り返す、このような日本国であっても仕方がないのでしょいか。

✦旧統一教会に対する批判は、被害者救済新法を成立させました。それはそれとして、例えば、悪質な詐欺で多額の被害にあい経済的破綻を来した場合、救済法はあるのでしょうか。安倍氏批判は、テロリストをヒーローにした側面はないのでしょうか。

（理事長 天草大陸）

## 当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得してます。

なお、併設の老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



### 表紙のことば

この作品は、夏の風物詩の「花火」です。制作途中では、たくさんの「てるてる坊主」を作っているように見えたが、完成して夏の風物詩の花火になることで制作過程とともに季節も移り変わっていくようで印象的でした。ホールに集まって、皆様談笑しながら楽しそうに作っており、有意義な時間となりました。（A病棟スタッフ一同）